

小学校一年生の学校生活 (二)



香 川 英 雄

前回では、

一、一年生の生活時間の実態

二、幼・小教育課程との関連

三、一年生の学習内容と指導(その一)

について記述をすすめてきたが、第二回としての今回は、つぎの項目について一年生の学校生活を紹介しながら、幼・小連絡の意味についても考えていくことにする。

三、一年生の学習内容と指導(その二)

四、一年生の生活指導

これらを中心にしてすすめていく。

三、一年生の学習内容と指導(その二)

(一) 学習指導について

前回、各教科の学習内容については、年間のながれをみてきたわけであるが、一年生の「学習指導」としてはつぎの二つの面が強調されている。

⑦ 学習態度の基礎をつくる

一年生では、よい学習態度の基礎を作っていくということがたいせつである。

保育歴や兄弟の有無、家庭の状況などからくる個人差は、優劣感を生じることになり、それが学習指導の障壁となるので、こういったことを調整することが重要になってくる。

⑧ 興味をもたせることからすすめる

一年生の学習指導は、遊びの形からといわれる。好奇心を利用して興味を高め、なるべく遊びの形や、生活経験をとり入れて学

習をすすめることである。とくに入門期においては、こういった配慮がだいじである。とくに、能力の低い子の取り扱い、話し方聞き方、観察の態度、グループ学習の態度など基礎的な面を考慮して指導をすることである。

こういった一年生の学習指導と、幼稚園の関連で時期的にもっとも近接している入学初期のようすをみると、つぎのようである。

(2) 入門期の指導

一般に入学四週間を、いわゆる入門期とよんでいるが、つぎにそのうちの一週間分の事例をあげてみる。

⑦ 入門期の指導計画展開例

(全体のねらい)

- ・学校は楽しいところという感じをもたせる。
- ・学校生活に大事な場所や設備を知り、つまづきのないようにする。
- ・学校生活での教師と子ども、ともだち同志の人間関係をわからせる。
- ・学校生活の中で、生活のきまりや学習のきまりを身につけさせる。

第六日	第五日	第四日	第三日	第二日	第一日	
<p>・(算数)(理科) けいさんき ・カードあそび ・いろいろな花 学校のからだの花をみる</p>	<p>・(国語)(図画) なまえ(絵ばなし) 本のとおりあつかい とびらのページ すぎなえをかく</p>	<p>・(体育)(社会) みんなでゲーム ・校庭めぐり 遊び道具や、水道の つかい方をしる</p>	<p>・(国語)(音楽) あいさつのおけいこ かみしばい(返事) むすんでひらいて 動作をつける</p>	<p>・(社会) 氏名とへんじか あいさつのかた 道名しらべ 道具のだしけれ 便所のつかいかた</p>	<p>・(入学式) はじめのことば 校長先生の話 担任の紹介 ・職員との紹介 ・上級生の歓迎のことばや、合奏、劇 来賓のおいわいの話 校歌をきく おわりのことば</p>	一時限扱い
<p>・学校めぐり 別教室をまわる</p>	<p>・(音楽)(社会) うたとリズムあそび ・うたとリズムあそび</p>	<p>・(体育)(社会) うたとリズムあそび ならびっこ かけっこ 校長室、職員室、講堂、用務員室、保健室などの学校めぐり</p>	<p>・(社会)(理科) 校庭めぐり 遊び道具や学級園、飼育場所を知る 廊下や室内の歩きかた</p>	<p>・(音楽)と(社会) しつていううた むすんでひらいて うたとリズム遊び かえりのあいさつ くつのだしけれ</p>	<p>・(教室に入って) 先生ともだちのなまえ 教室や自分の席 明日からの登校 記念品くばり 記念さつえい</p>	二時限扱い
<p>・道具をおくところ、約束の徹底 花だんや、特別教室にふだん入 ってはいかないところの確認 遊んでいいところ、いけないところ</p>	<p>・学校めぐりのときに、人の話を しすかにきく態度の指導 用務員さん、みどりのおぼさん にわかりやすく、てみじかに話 してもらう連絡 ・学校めぐりの見取図やカードの 利用</p>	<p>・遊んでいい場所といけな場所 自分の教室から固定施設へのい きかた 廊下や室内歩行の指導(かけないで、しすかに)</p>	<p>・先生と、ともだちへのあいさつ のれんしゅう ・自分のなまえをはっきりいう ことなりの子のなまえをいわせる ・道具の出しけれ、机中の整頓が はやくきちんとできるように 遊んでいい場所といけな場所 や、道具の使い方をたしかにい きかた</p>	<p>・氏名と返事の徹底 ・「おしつこういえるように かばん・ぼうし・うわばきのお きかたをしつかりさせる ・便所の使い方を現場でおしえる</p>	<p>・前日、教室づくりをして感じの よい教室にしてむかえる ・掲示のこふうをはじめておく ・やさしい言動につとめる ・第一声に気を付けて、子どもの 気持ちを解放していく ・事情のある子について、この日 に父母から話をきいておく</p>	指導上の留意点

① 指導上の配慮とくふう

入学当初は不安なものであり、緊張しているから心身ともに疲労しやすい。一日も早く担任と児童、児童同志の親しみある結びつきをはかるようにしていく。また、楽しい学校生活がすすめられるように、必要な施設や設備をはやく、よくわかるようにする。

とくに、学習の場では、指導計画展開例でみられるように、教室の中にとじこめておいたり、じっとすわらせないで、動きのある指導をしていくようにしている。長くひとつのことは続かないので、一時間の中で二つや三つの教科の内容がこきぎみに指導されている。つまり、入門期の子どもたちには、生活にとけこんだ学習指導が必要であって、ことさらに学習面を強調することではなく、むしろ遊びを中心とし、子どもの欲求や興味にそって学習を展開していくように配慮とくふうをすすめている。

(3) 学習の評価

一年生の学習でも、毎時間二つの面から評価がなされている。一つは教師の側から、指導目標との関係において、どこまで到達したかをしらべ、目標の検討や指導計画の反省、指導法などの検討をすすめている。

もう一つは、学習活動の主体である子ども側の自己評価の機会である。学習の一環として、学習活動の過程で継続的になされる

第七日

・朝礼時に上級生の花のトンネルをくぐって、向かいあつて対面式をおこなう
 ・歓迎のことば
 ・校歌
 ・音楽で入退場

・いろぬりあそび
 ・線で形をとる
 ・すきな色でぬる
 ・あとしまつのしかた

・対面式のならば方やすみ方をせつめいする
 ・よい思い出するため、小さいなことで注意しない
 ・ハンカチ、はながみ、つめなどをそろそろみてあげる

るものである。つぎの学習活動へつながる動機づけの役割をになつていく場合が多い。

評価の方法としては、学習活動時に児童の発言内容や、ノートされたものが目標に適合しているかをおさえたり、ペーパーテスト(客観的検査)などによっておこなっている。

一年生の一学期では、文によるペーパーテストは、問いの文がまだ読みこなせない段階なので、多くは絵や図形を中心にしたものであるが、説明や答えの書き方などがわからなかったり、ともだちのを見がちで正しい評価にはなりにくい。だいたい、一年生の一学期ではペーパーテストは無理で意味がないといえよう。

本来、評価は、評価の成績によって児童相互の比較をしたり、優劣をつけるといったものでなく、評価によって個人指導の資料を得るということであるし、また、知識の評価のみでなく、社会的適応性や、気質、身体的特質や、体力などについても評価することが大切である。

学習や、行動、性格などの評価に関する観点や項目は、つぎの東京都公立小学校児童指導要録を参照されたい。

東京都立小学校児童指導要録

児童氏名		各教科の学習の記録						行動および性格の記録										
		各教科の評定						事実の記録										
教科	学年	1	2	3	4	5	6	第一学年	文章表現	第四学年		第二学年		第五学年		第三学年		第六学年
国語																		
社会				● 5段階の総合評定である。														
算数					5(7%)													
理科					4(24)													
音楽					3(38)													
図画工作					2(24)													
家庭					1(7)													
体育																		
各教科の学習についての所見																		
教科	観点	学年	1	2	3	4	5	6	評定									
国語	聞く								学年	1	2	3	4	5	6			
	読む								項目									
社会	進歩の状況								基本的な生活習慣									
	社会現象への関心								自主性									
算数	進歩の状況								責任感									
	数算形への関心								根拠強さ									
理科	進歩の状況								自省心									
	自然の現象への関心								向上心									
音楽	進歩の状況								公正さ									
	音楽の理解								指導性									
図画工作	進歩の状況								協調性									
	絵をかく								同僚性									
家庭	進歩の状況								公共心									
	家庭実践的態度								積極性									
体育	進歩の状況								情緒の安定									
	運動の技能								所見									
標準検査等の記録																		
学年	検査年月日	検査の名称・結果・備考																
		2年、4年、6年で行われている。																
第一学年		文章表現																
第二学年																		
第三学年																		
第四学年																		
第五学年																		
第六学年																		

(4) 学習内容や指導に関する幼小の連絡
一年生の担任として、新入児に対する問題点として強く感じたのは、つぎのことである。

●氏名をよばれてもはっきり返事ができない子が多い。

●まして、用事や思っていることを先生に伝える子が少ない。

●したがって、学習中も「うけこたえ」がはっきりせず、考えをみんなのまえでいえない傾向が強い。

●こちらから、聞きだしていくとこっくりをする子が多いということである。

これらの問題点は、幼児の傾向として当然のことであるが、幼小連絡の意味として考えるとき、指導のポイントの一つになるものではないだろうか。

すなわち、どんなときでも「はい」「いいえ」がはっきりいえる子、考えたいときは「ちょっとまってください」といえる子、わからないときは「わかりません」といえる子を、全領域の根底にはっきりすえて指導しなければならぬということである。

「はい」「いいえ」などのうけこたえができないで、どうして集団での学習が進展するであろうか。

家庭や保育所・幼稚園でも、小学校の低学年までに、一貫してこれらの指導にあたるべきものと痛感したことである。

幼稚園の言語の領域の三に關する事項、

「日常生活に必要なことばが正しく使えるようになる。」の(1)名まえを呼ばれたり、仕事を言いつけられたとき、返事をする。この中で、また、二に關する事項、

「経験したことや自分の思うことなどを話すことができるようになる。」の(2)したいこと、してほしいことをことばで表現する。

(4)疑問をもったことについて尋ねる。(5)簡単な伝言をする。(6)相手にわかるように話し、また話す態度に気をつける。の中で、もっと具体的にはっきり「はい」「いいえ」「まってください」「わかりません」などの「うけこたえ」を位置づけていく必要があるのではないだろうか。

同じようなことが小学校の一、二年の国語の「聞くこと、話すこと」の内容の中でもいえることである。

「はっきり返事をする事」そのために「質問をしたり応答したりする」などという事項があっても、「はい」「いいえ」「ちょっとまってください」「わかりません」の具体的な指導が行き届かず、何年生になっても「うけこたえ」が身についていないということになる。このことは、よく話せない子ども、話しすぎる子どもなどという一部の問題でなく、全部の子どもにこれだけはきちんと身につけさせるべきことであろう。

幼小連絡の問題では、このほかに「健康」の領域では、三に關する事項でとくに強調したいのは(4)交通の規則を守ることが、家

庭と保育所、幼小を一貫として徹底しなければならぬ問題であり、段階的に今後もっと指導されるべきであろう。

また「自然」の領域の四に関する事項では、(3)……数の範囲を数えたり、順番をいったりする。などの数量的な生活面と一年生の重複の問題をどうするかなど、内容的には幾多の連絡の問題が目につくことであるが、前述したように集団として生活したり、学習していく土台としてのどこでも通用するルールや原則の技術を一貫して指導していくことが、なによりも前提になることであり大事なことだと思われる。

四、一年生の生活指導

(1) 生活指導についての考え方

- 一人ひとりの子どもを大切にして、子どもをよく理解していく。
 - 正しい生活習慣を身につけさせる。
 - 集団を通しての個人指導をすすめ、自律心を育てていく。
- この考えに立って、一年生の生活指導については、つぎの二面が強調されている。

⑦ 学校生活になれること

はじめての学校生活であるので、すこしでもはやく学校のきまり、集団のきまりを知ってそれに順応していくことである。学校

全体としては、生活指導の目標や計画がたてられていて、一年生としてもこれを果たすことが要求される。しかし、入門期では、時間時刻についてのきまり、登下校、教室での動作、廊下歩行、給食や手洗いの仕方、校庭での遊び方などの約束、きまりなどの基本的なことになるように指導をすすめている。

⑧ 習慣化する

⑦の学校生活での基本的行動様式は、無意識に行なえるようになるまで指導することが望まれている。日々の言動が習慣化されているならば、より高度の生活指導の受け入れ態勢がこどもに作られていくものと考えられる。

・ 月別の生活指導目標の例 (A表参照)

・ 場面ごとの生活指導目標の例 (B表参照)

(2) 生活指導に関する幼小連絡の意味

幼稚園では習慣形成に生活の重点がおかれているが、小学校ではどうしても教科指導や生活の複雑さに追われて、生活習慣の面がなおざりにされがちである。生活指導をすすめている研究学校でも、ある場面や個人的な言動の習慣が身についても、不特定の大衆の場とか公共物でのよい習慣形成は困難であるといわれる。これは、公德心・公共心に対する指導の、わが国の伝統の浅さと、家庭や幼稚園、学校教育における躰のバックボーンの欠如を物語っているのではなからうか。大いに問題となるところである。

A表●月別の生活指導目標の例

月	生活指導目標(重点)	指導目標の具体的項目(低学年)
4月	あいさつ ともだちのよび方と返事	家を出るとき帰ったとき、先生や友だちへの挨拶。 〇〇くん、〇〇さん、「はい」「いいえをはっきり
5月	廊下や室内のあるきかた せいりせいとん	右がわをしずかに歩く。走らない。 持ち物に記名をする。きちんと所定のところにおく。
6月	時刻をまもる みのまわりのせいけつ	登下校や、ともだちのうちや、帰るときの時刻を守る。 給食、便所の手洗い、教室をきれいにする。
7月	なつのえいせい 校庭のあそびかた	ハンカチのほか汗ふきの携行。手洗いの励行。 友だちと仲よく遊ぶ。道具を正しく使う。
8月	きまり正しいくらし 行先をはっきり	ねおきや、食事、遊び、学習などきまり正しくする。 行先をはっきりいって出る。帰りの時刻を守る。
9月	上ばき下ばきの区別 集会の集まり方並び方	上ばき下ばきの区別をしつかり確認する。 おしゃべりしないで、早くならぶ。
10月	正しい物のとりあつかい	遊び時間よくあそぶ。うんどうをしつかりする。 本のとり扱いや学習用具をきちんとていねいに。
11月	しごとをしつかり きまりを守ろう	係りのしごとやそうじをしつかりする。 学校や、公衆のきまりを守る。
12月	正しい言葉づかい よい遊びをしつかり	はやり言葉を使わない。いやがることをいわない。 火あそびや、夜ふかしをしない。
1月	学習準備をしつかり ものをたいてしつかり	忘れものをしない。 むだづかいをしない。学習用具を大事につかう。
2月	冬のえいせい 寒さにまけない	窓をあける。教室をきれいに。手洗いをしつかり。 ポケットに手をいれない。外で元気な遊ぶ。
3月	くらしをふりかえる あとしまつ	一年をふりかえて、あとしまつをする。 ともだちの物や、公共物をもとにかえす。

B表●場面ごとの生活指導目標の例

<ul style="list-style-type: none"> ●登校の場面 ●学習用具をたしかめる ●「行ってまいります」の挨拶をする ●家を出る時刻をきちんとする ●交通のきまりを守る ●乗物を使うときは、人に迷惑をかけない ●始業前 ●開門の時刻前に学校にこない ●くつや、かばんをきちんとおく ●だれにでも朝の挨拶をする ●学習用具を机の中に整理する ●係りの仕事をする ●学習 ●学習の用意をしてしずかに先生を待つ ●正しい姿勢で学習する ●手をあげるとき「ハイ、ハイ」 ●先生や友だちの話をよくきく ●話すときは、きこえるように話す ●休み時間 ●外へでるときは腰かけを入れる ●用便は休み時間しておく ●廊下は走らず右側を通る ●室内や廊下では大声をださない ●危ない遊びや迷惑になることをしない ●遊んだり仲よく楽しく遊ぶ ●給食 ●給食の前には、手をきちんと洗う ●正しい姿勢で給食をする ●好ききらいなく、なんでも食べ ●立ち歩かない、おしゃべりしない ●給食のあとしまつをしつかりする 	<ul style="list-style-type: none"> ●掃除 ●掃除のときは早く自分の場所に集まる ●話しあって仕事を分担する ●まじめに一生けんめいにする ●みんなと力をあわせてやる ●きめられた時間内にすませる ●用具の整理あとしまつをしつかりする ●便所 ●ドアをあける前にノックをする ●よごさないように気をつける ●使用後は、ながしておくのを忘れない ●紙はきめられたものを使う ●すんだらドアをきちんとしめる ●手をかならず洗う ●下校 ●机と腰かけのせいとんをする ●係りの仕事をきちんとすませる ●友だちや先生に「さよなら」の挨拶 ●下校の時刻を守る ●「ただいま」のあいさつをする ●寄り道をしないでかえる ●みんな使ったもの、ていねいに片づける ●みんなで使うもの、ていねいに使う ●廊下などでお客様にあつたら会釈をする ●紙いことばは使わない ●悪くずをおとさない、見つけた鼻紙、ハンカチはいつでも持って ●忘れたものをだまっていかに帰らない ●ポケットの中へ手をいれて歩かない ●知らない人に声をかけられたら注意する ●外へ遊びに行くときは行先をい
---	--

(港区立白金小学校)